研究区分	教員特別研究推進　地域振興

研　究 テーマ	不登校生徒の教育介入による精神的健康状態、家族機能、QOL の評価				
研究組織	代　表　者	所属・職名	食品栄養科学部・教授	氏名	桑野　稔子
	研究分担者	所属・職名	食品栄養科学部・助教	氏名	亀山　詞子
		所属・職名	京都女子大学・講師	氏名	橋本　彩子
		所属・職名	東洋大学・教授	氏名	井上　広子
		所属・職名	フリースクール元気学園・校長	氏名	小林　高子
		所属・職名	岐阜大学医学部	氏名	杉山　三知代
	発　表　者	所属・職名	食品栄養科学部・教授	氏名	桑野　稔子

講演題目

不登校生徒の教育介入による精神的健康状態、家族機能、QOL の評価

研究の目的、成果及び今後の展望

【背景・目的】

現在の日本において、児童生徒の不登校は大きな社会問題の一つである。文部科学省の調査によると、日本における不登校児童生徒は、2020 年度において、196,127 人であり毎年増加している。文部科学省や関係機関などで様々な対策が講じられてきているが、増加を食い止めることはできておらず、解決に結びつくエビデンスが不足している。

一方、不登校の児童生徒は、調査をすることが難しく、不登校児童生徒の支援に必要なデータが不足している。そのため、日本における児童生徒の不登校の原因と解決のための詳細なデータが極めて乏しい現状にある。

そこで、本研究では、不登校生徒に対する有効な支援方法を検討するための基礎資料を構築することを目的として、不登校生徒でフリースクール入学者を対象に、精神的健康状態、家族機能、QOL の実態を把握するとともに、フリースクールにおける 6 ヶ月間の教育介入の影響について検討した。

【方法】

本学研究倫理審査委員会の承認後、S 県 S 市内のフリースクール入学者（12～15 歳の中学生：男子 8 名、女子 7 名）を研究対象とした。

生徒の調査項目は、抑うつ状態、不安状態、QOL、幸福度、家族機能とした。各指標について、相談会時、入学時、入学後 1 ヶ月、入学後 6 ヶ月の 4 群間の解析、各調査時期における男子と女子の 2 群間の解析を行った。

統計解析は SPSS 25.0 J for Windows にて行い、有意確率は全て 5%未満とした。

【結果・今後の展望】

不登校生徒のフリースクールにおける 6 ヶ月間の教育介入による影響は、抑うつ状態、QOL、幸福度の改善が見られ、適切な教育介入により、精神的健康状態が改善されることが明らかとなった。

家族機能は、女子では改善したが、男子では、入学後 6 ヶ月時においても家族機能低下が継続し、有意な変化は見られなかった。

本研究結果より、不登校生徒の 6 か月間の教育介入による影響を明らかにすることができ、不登校生徒に対する有効な支援方法の検討のための基礎資料の一つとして、貢献できると考える。